

研究協議 第2分科会「地域と学校との連携・協働について」記録

令和元年8月30日(金) 9:15~11:15
(相馬市民会館多目的ホール)

【助言者】

福島県教育庁相双教育事務所
総務社会教育課
社会教育主事 國分 伸志

1 開会のことば

2 問題提起

(1) 三春町「地域とともにある学校づくりをめざして」
～学校運営協議会制度(コミュニティスクール)を核とした取り組み～

- ① 三春町の概要について
- ② 学校運営協議会設置までの経緯・学校運営協議会制度について
- ③ 学校運営協議会の実際の運営状況
- ④ 地域と学校との連携・協働による教育活動実践例
- ⑤ 学校運営に対する意見を聞く連携について

(2) 塙町「地域と学校との連携・協働について」

- ① 塙町の概要について
- ② 塙町の学校支援ボランティアの取り組みについて
- ③ 塙町の学校支援の成り立ちについて
- ④ 地域と学校との連携・協働の方向性について
- ⑤ 地域学校協働活動についての問題点

3 質疑応答・研究協議

Q:三春町でスムーズにいった点と難しかった点は?

A:地域が広く、4つの地域の行事、文化が違うのでまとめるのが大変だった。また、委員の選定が難しい。4つの地域から一人ずつ選ぶこととして、委員長が各地域の選定に当たった。

なお、運営委員会の中に教育委員会が入っているので、行政側とスムーズに連携が取れている。(回答者:三春町)

Q:学校運営協議会で教育課程の承認がされなかったらどうするか。

A:承認されるまで説明を続け、理解を求め、説明することによって学校のよさを分かってもらえるようにする。(回答者:三春町)

Q:小野町では小学校8校が1校になる。地域と学校との連携はどこから始めたらいいのか。早めの取り組みをやっていきたい。

A:三春町では当時、社会教育委員は5人しかいなかった。三春中ができた時に、地区の子ども達を奪ってはいけないと思った。小学校区に絆プロジェクトがあることを発見し、中学校に行っても、小学校の地区の行事に参加するようにした。伝統をなくさないように、地区と子どもたちをどう引きとめられるか取り組みを考えていく。

(回答者:三春町)

Q:学校運営協議会は単独校がいいのか、複数校がいいのか。

A:三春町は各学校に設置。法改正により複数校で設置可能になった。協議は小学校部会、中学校部会それぞれで行い、その後話をまとめている。(回答者:三春町)

Q:福島県のコミュニティスクールの導入率は?

A:6.2%で、今後増加を予定している。(回答者:國分)

Q: 幼小中では協議会がある。高校ではどうなのか。高校がなくなったら地域に子どもがいなくなってしまう。高校生と地域の関わりがある地域はあるか。

A: 高校生が地域の職場体験をしたり、商品開発をしたりという事例はある。

(回答者：國分)

4 助言

(1) はじめに

(2) 三春町、埴町の実践事例発表から

(3) 社会教育委員と地域学校協働活動

社会教育委員の方々は、地域学校協働活動で、まさにキーパーソンになる方々である。学校の教育活動を理解した上で、幅広い視野で連携・協働に関わっていただきたい。地域コーディネーターの委嘱は市町村の実態によるが、委嘱されていない場合であっても、是非コーディネーター的な役割も担っていただきたい。そして日頃から連携・協働活動の状況や人材情報を蓄積したり、後継者を育成したりすることができれば、今後も継続した活動となることが期待できる。

しかし、最初から、本日お話ししたような連携・協働を目指すのはなかなか難しいことも考えられる。まして、全く新しいことを始めようとする、尻込みしてしまう。今年度いくつかの学校を訪問させていただいて分かったことは、既にどの学校でも地域学校協働活動を実施しているということである。まだ馴染みのない言葉だけに、すでに実施している活動が地域学校協働活動であるということに、現場の先生方がまだ気付いていないという状況である。同様に、地域の活動も「連携・協働」という視点で見直すと、すでに地域学校協働活動として実施しているものが見えてくるかもしれない。

地域と学校の連携・協働について造詣が深く、今年度福島県内で数多く講演していただいている尚絅学院大学の松田教授によると、地域の人が入ることで楽になること、例えば清掃ボランティアや学習支援などから始めてみるのもひとつの方法であるというお話を先日伺った。まずは学校支援から、というスタートであっても全く問題はない。

(4) おわりに

5 閉会のことば